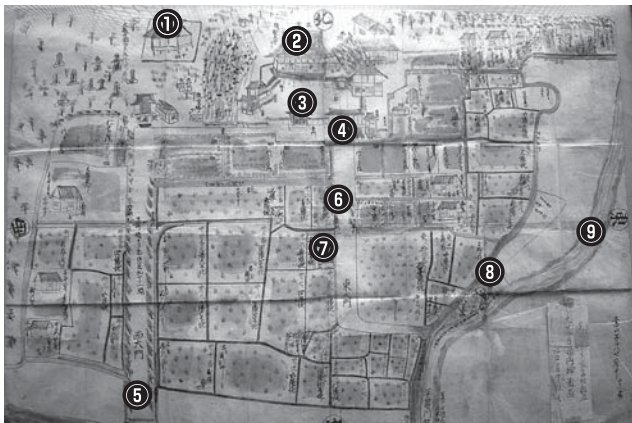


笛吹市探訪

『大蔵経寺境内図に 描かれた場所を尋ねて』

平成23年度に刊行したスポットガイド「大蔵経寺周辺の古墳と集落」には、江戸時代（18世紀）に描かれた「大蔵経寺境内図」と、大蔵経寺（注1）前における遊興施設建設に伴い行われた大蔵経寺前遺跡発掘調査の時に撮影された航空写真が掲載されています。

まず「大蔵経寺境内図」を紹介します。この絵図は大蔵経寺が所有し、江戸時代の寺周辺の様子が



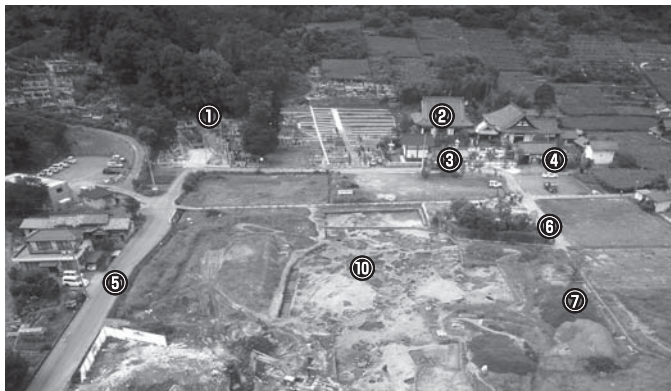
「大蔵経寺境内図」

絵図・写真の説明

- ① 物部神社（十社明神）
- ② 大蔵経寺本堂
- ③ 大蔵経寺唐門
- ④ 大蔵経寺裏門（現在の仁王門）
- ⑤ 物部神社参道（西側の道）
- ⑥ 大蔵経寺参道（東側の道）
- ⑦ 道祖神塚古墳
- ⑧ 無名墳
- ⑨ 平等川
- ⑩ 大蔵教寺前遺跡

描かれていて、普段は宝物殿に保管されています。絵図の西側には物部神社（注2）と参道が、北側中央には大蔵経寺の本堂・唐門・裏門が、東側には平等川（注3）・無名墳が描かれています。大蔵経寺前の広い田畑には大蔵経寺参道・道祖神塚古墳（注4）が描かれています。参道・物部神社・大蔵経寺本堂・唐門・裏門・道祖神塚・平等川の位置は現在と変わりません。次に大蔵経寺前遺跡発掘調査の航空写真を紹介します。発掘調査は大蔵経寺南側のブドウ園・セメント工場等があった場所に遊興施設を造る計画が持ち上がり行われました。

航空写真は「大蔵経寺境内図」とほぼ同じ構図で平成17年に撮影されています。写真左側には参道があり、物部神社の森が見えます。写真の右側には大蔵経寺の本堂が見えます。大蔵経寺の前が遊興施設建設に伴い発掘調査が行われた場所（大蔵経寺前遺跡）です。発掘調査では5世紀中頃から6世紀代の円墳が5基見つかりました。



大蔵経寺前遺跡発掘調査航空写真＝平成17年撮影

遺跡の右側に見える緑色の盛り上がり道祖神塚古墳で、発掘調査で見つかった古墳群の一部であることが分かりました。

「大蔵経寺境内図」と大蔵経寺前遺跡発掘調査の航空写真を比べてみると大蔵経寺周辺の土地利用の移り変わりが良く分かります。皆さんも「大蔵経寺境内図」に描かれている参道を通り、物部神社・大蔵経寺・道祖神塚古墳・平等川等を訪ねてみてはいかがですか。

注1 大蔵経寺 真言宗で本尊は不動明王。寺宝として「絹本着色仏涅槃図」（国重要文化財）等が伝わっています。

注2 物部神社 十社明神とも呼ばれ、物部氏の祖十神を祭っています。境内にはシラカシ等からなるカシ林があります。

注3 平等川 笛吹川の支流。山梨市・笛吹市等の北西部を流れています。

注4 道祖神塚古墳 5世紀中頃から後半に造られた円墳。直径は25m、周囲を巡る溝の幅は5mあります。

注5 大蔵教寺前遺跡 5世紀中頃から後半に造られた円墳。直径は25m、周囲を巡る溝の幅は5mあります。